

HIC通信



Global Relations Program

「グローバルリレーションズ・プログラム(GRP)」参加者の声

HIC article: Sawang Meesaeng(Thailand)

When I was accepted to study at Hiroshima University. I am very pleased. However, as an international student, I was very concerned about my life and my study in Japan. One big concern was about the dormitory during my stay at Higashihiroshima. The International Student Support Officers suggested me to apply for staying at Hiroshima International Plaza. Therefore, I applied to the Global Relationship Program (GRP). This program aims to facilitate international students to live at Hiroshima International Plaza for cultural exchange and sharing, together with the learning of Japanese culture.

I found my life at Hiroshima International Plaza is very comfortable, not only because of convenient facilities, beautiful location, the staff of Hiroshima International Plaza are very kind and always give us the best support. Hiroshima International Plaza equipped with many facilities

such as gymnasium, library, cooking room, leisure room, and the Restaurant RACCOLTO where serves international buffet for cross-cultural learning through the foods. Hiroshima International Plaza also provides us even the transportation services such as free shuttle bus, or bicycles for borrowing.

Furthermore, Hiroshima International Plaza organizes cultural activities in every month to promote the beautiful culture of Japan. In addition, Hiroshima International Plaza also offers opportunities for international students and guests to interact with the local community to participate in local events.

I would like to thank all the efforts of Hiroshima International Plaza to promote cultural understanding between international students and the Japanese community. This helps the lives of international students at Higashihiroshima be happy and memorable.



グローバルリレーションズ・プログラム(GRP)とは?

ひろしま国際プラザに入学して大学に通いながら、国際社会で活躍できる「実践力」を身につけることを目的にした、外国人留学生のためのプログラムです。現在、9ヶ国19人の留学生が参加しています。そのほか、レジデントアシスタントの日本人学生2名が入学し、彼らを支援しています。

★入居使用料
1泊770円 管理費2,500円/月
月額24,060円~26,370円
(水道光熱費込み)

賛助会員を募集しています!

HICでは幅広く市民の皆さんに協会の事業についてご理解、ご支援いただくために賛助会員制度を設けています。賛助会員の皆さまには、協会機関誌など国際交流情報やイベントのご案内をお送りさせていただきます。この制度を通して言葉や習慣の違いを乗り越え、心を通い合わせることのできる豊かなまちづくりに一緒に参加しませんか?

皆さまからご支援いただく賛助会費(※)は国際交流事業、国際理解教育事業、多文化共生事業に使わせていただいております。

■入会資格

協会の趣旨に賛同していただける個人、法人・団体

■年会費

個人一口 2,000円(一口以上)
法人・団体一口 10,000円(一口以上)

※当協会に対する賛助会費については税法上の優遇措置があります。

交流部&留生活活躍支援センター

〒730-0037
広島市中区中町8-18 広島クリスタルプラザ6F
TEL.(082)541-3777 FAX.(082)243-2001
E-mail/hic@hiroshima-ic.or.jp

■開館時間
月~金 10:00~19:00 土 9:30~18:00
日・祝日および年末年始(12/28~1/4)はお休みです。

研修部(ひろしま国際プラザ)

〒739-0046
東広島市鏡山三丁目3-1 ひろしま国際プラザ内
TEL.(082)421-5900 FAX.(082)421-5751
E-mail/hicc@hiroshima-ic.or.jp

■開館時間
(情報センター・図書室・NGO交流室) ※情報センター・図書室は平日
12:30~13:30閉館です。臨時
月~土 10:30~19:00※ に閉館する場合は、HPで随時
お知らせします。
日・祝日および年末年始はお休みです。



目次

- P2 知事お祝いコメント・HIC通信の振返り
- P3 カープアカデミー選手インタビュー
- P6 事業報告
交流部
留生活活躍支援センター
- P9 草の根事業
紺野美沙子さんトークショー
- P10 コラム
Hello Hiroshima
海外ボランティア募集
- P11 JICALレポート
こちら JICA デスク
イベント・講座案内
Upcoming Event News

HIC通信第100号に寄せて

広島県知事 湯崎 英彦



公益財団法人ひろしま国際センターの情報誌「HIC通信」の創刊第100号の発刊にあたり、御挨拶申し上げます。

貴センターは、県内市町や民間企業等の支援により、平成元年に設立されて以来、広島県において国際交流を推進する中核的な組織である「地域国際化協会」として四半世紀以上の長きに渡り、様々な活動を展開してこられました。

近年では、多文化共生社会実現に向けた外国人相談窓口や日本語学習支援を始め、広島県留学生生活支援センターを核とした外国人留学生の受入や就職支援、さらにはひろしま国際プラザを活用した国際人材育成研修など、地域の国際化の推進に多大な御貢献を賜っておりますことに、心から敬意を表する次第でございます。

御承知のとおり、人口減少・少子高齢化が進む一方で、在留外国人や外国人観光客は年々増加を続けており、経済活動においてもグローバル競争が激化するなど、社会経済情勢は大きく変化しております。

こうした中、留学生の受入や定着促進、民間団体への支援を始めとする地域国際交流など、地域の国際化推進を担う中核組織としての貴センターの果たす役割は、ますます重要に

なっております。

本県におきましても、「ひろしま未来チャレンジビジョン」に基づき、県民の皆様の「欲張りなライフスタイル」の実現を応援するため、さまざまな施策を推進しているところでございます。

広島の魅力にひかれ国内外から人が集まるよう、広島で育った人だけでなく、県外や外国人の方々にとっても暮らしやすい環境づくりを始め、外国人観光客へのおもてなしの充実、東京オリンピック・パラリンピックの事前合宿受入に関連した様々な交流など、県民の皆様と一緒に地域のグローバル化に向けた取組を積極的に進めて参ります。

貴センターにおかれましても、本県の取組に引き続き御支援いただきますとともに、今後とも、地域の国際化推進に、一層の御尽力を賜りますよう、お願い申し上げます。

終わりに、公益財団法人ひろしま国際センターの今後ますますの御発展と、関係の皆様のお健勝を祈念いたしまして、御挨拶とさせていただきます。



カープ アカデミー選手 インタビュー



モンティージャ選手

タバーレス選手

フランスア選手

141
Montilla

142
Tavarez

143
Franzua



ドミニカ共和国から来日されているカープアカデミーの3選手に 野球のこと、広島での生活のことなど、色々インタビューさせていただきました。

※本文中の T→タバーレス選手(背番号 142), F→フランスア選手(背番号 143), M→モンティージャ選手(背番号 141)

HIC 通信の 100号の 変遷

1989年3月 創刊

当センターの設立に伴い、活動報告や国際交流イベント等の広報誌として創刊。創刊に際して当時の竹下広島県知事からのお祝いメッセージをいただきました。



1991年8月 Vol.8

B5判からA4判に紙面を一新。写真等のビジュアル情報を増やし、より読みやすくするとともに、国際理解のページや市町村・企業の国際化に関する取り組みを紹介。



1996年12月 Vol.25

東広島に「広島国際協力センター」を設立、97年4月から同センターに拠点を置くHIC研修部が新設されました。HIC通信では、当時建設中の国際協力センターを紹介しました。



2005年10月 Vol.50

節目の50号を発行。前号49号から、より旬な情報をお伝えるために、年3回の発行から年4回に増刊しました。



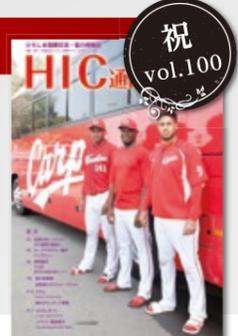
2015年10月 Vol.90

現在のフルカラーバージョンにデザインを一新し、より見やすく、内容的にも旬な特集記事を掲載し、関係団体の皆様にお届けしています。



2018年4月 Vol.100

創刊より29年で記念すべきVol.100を発刊することができました。これもご愛読いただいている皆様のおかげです。これからも旬で、有益な情報を発信してまいりますので、よろしくお祈りします。



皆さんこんにちは。今日は3連覇を狙う広島県民注目の広島カープの選手で、ドミニカ共和国から来日されている3選手の方に、広島での生活や多文化共生の実情について、お話を聞きたいと思っております。

さて、本日はお忙しい中、お時間をいただき有難うございました。

お話を聞く前に、私たちひろしま国際センターについて、簡単にご紹介させていただきます。ひろしま国際センターは広島県をはじめ広島県内の市町と民間企業が共同で設立した団体です。広島県内に住んでおられる外国人の方たちへのサポートや、地域住民との積極的な交流を推進しています。

皆さんからお聞きしたご意見を今後の活動に活かしていきたいと考えていますので感じた事を率直にお話ください。それではお話を聞いていきたいと思います。

— まず、カープアカデミーに入ったきっかけを教えてください。

T: アメリカにいた時に、カープアカデミーを紹介されて契約をしました。

F: 私は前にアメリカのチームに所属していました。アメリカ人がアメリカンドリームを求めるように、私は日本で夢を実現したいと思ったからです。

M: 5年前に相手チームとして対戦した時に、カープの人か

らスカウトされました。

— 広島(日本)に来日されたのはいつ頃ですか。

T: 2017年の9月にきました。
F: 2017年の10月にきました。
M: 2014年9月に広島にきました。今年で4年目です。

— 初めての広島の印象はどうでしたか。

T: とても良い印象でした。礼儀正しく、ファンの人の対応も良かったです。
F: 全部良かったです。特に人々が優しい印象でした。
M: 日本の制度や礼儀正しさ、優しさは良い印象でした。ドミニカと全く違った。

— 広島(日本)とドミニカの共通点と違いはありますか。

T: 全部違います。例えば日本では先輩を尊敬するが、ドミニカでは友達のような関係です。それに安全です。
F: 全部違う。違いが大きすぎる。
M: 全部違う。

— 広島(日本)に来て、何か驚かれたことがありますか。

F: 車が右側通行だし、挨拶も日本はお辞儀で前に屈むが、ドミニカの挨拶は後ろに反るし、人に対しての礼儀が違う。



M：今まで、そんなに歩いているので驚いたことがない。

——広島(日本)に来て良かったなと思われたことがありますか。逆に、がっかりされたことはありますか。

T：日本に来ることが目標だったので、やった!!と思った。がっかりしたことは何もありません。

F：全てが良かったです。がっかりしたことは何もありません。

——毎日練習で忙しいと思いますが、休みの日には何をされていますか。

T：これまで休みが余り無いが、休みの時はジムに行って、野球のビデオを見たり、買い物に行きます。寝る前にもビデオを見ます。

F：買い物するために、広島や宮島に行きます。宮島は素晴らしい！

M：広島や宮島に行って買物をします。

——買物や遊びに行く時は、誰かと一緒に行かれるのですか？

T：他のドミニカの選手と一緒に買い物に行きます。

F：ドミニカの選手と一緒に買い物に行きます。日本語が余り分からないので、1人では外出は難しいです。

M：1人でいきます。日本語が少しわかるので、4年目です。

——これまで行った場所で、皆さんが楽しいとか面白いと思った場所がありますか。

F：宮島は今までで一番良かった。ほかの場所には余り行ったことが無いので。

——日本の中で、これから行ってみたい場所はありますか。もしくはやってみたい事がありますか。それはなぜですか。

T：洋服の買い物に行きたいです。例えば ZARA とかにいきたいです。洋服が欲しいので。

F：原爆ドームに行きたいです。広島の有名な観光地だから。

M：東京に行きたい。日本の首都だし、沢山の外国人やドミ

ニカ人がいるので会いたい。東京の雰囲気を見てみたいです。

——食事についてお聞きします。日本の食物はお好きですか？

T：余り好きではないけど、少しずつ慣れないといけません。

F：料理が塩や油が少なく味が薄いので余り好きではありません。

M：ドミニカ料理は少し辛いのに比べて味が薄いので、余り好きではありません。

——日本の食べ物は余り好きではないようですが、それでも好きなものを上げると何が好きですか。

T：焼肉が好きです。美味しいです。

F：焼き肉が好きです。お寿司は好きではありません。食べられません。

M：ラーメンが好きです。



——ドミニカの料理を食べたくなることがあると思いますが、広島には残念ながらドミニカ料理を食べれるお店がありません。もし食べれるなら何のドミニカの料理を食べたいですか。

T：「HABICHUELAS」(インゲンマメのとりみのあるシチュー)ご飯と一緒に食べると元気になります。

F：「プラタノ」(調理用バナナ)料理が、とても好きです。

M：「ダンプリング」(小麦粉をねってゆでたもの)鳥のタレにつけて食べます。寮では日本人選手とは別に、ドミニカの選手のためにドミニカの料理を作ってくれます。

——皆さんの場合には、カープ球団がサポートされていると思いますが、それでも何かと不便なことがあると思います。生活をする上で何が不便ですか。

T：全て大丈夫です。

F：不便なことはありません。

M：問題ありません。

——日本語や日本について何か勉強されたことがありますか。

T：特に何もしていません。通訳の人が教えてくれたので、挨拶やお礼くらいは話せるようになりました。

F：ドミニカにいた時に少し日本語を勉強しました。大学から学生がアカデミーに来てくれて、2か月間日本語の授業がありました。一番好きな日本語は「がんばれ!!」です。

M：日本では選手は日本語の勉強はしません。通訳の人に教えてもらうくらいです。ドミニカでは日本語の授業がありました。私は早く日本に来たので、余り勉強していませんでした。

——地域や役所(県や市)に対して、要望又は期待することがありますか。

F：全部完璧です。

M：全部大丈夫です。

——現在、広島とドミニカは、スポーツを通じた良好な関係が構築されていると思いますが、今後、つながりを更に深めるにはどうしたら良いと思いますか。

T：日本でドミニカの選手が活躍して、次のドミニカの選手のために、日本に来る道筋を作ることです。

F：前に日本に来たドミニカの選手の様に、良い仕事をし続けて、いつもチームを支え続けることです。

M：日本に来る機会をもらうために一番大切なのは、しつけ、練習、礼儀正しいことが重要です。私たちが良い仕事を一生懸命することで日本との関係がもっと良くなると思います。

——野球について少し聞かせてください。野球は何歳の頃から始めましたか。

T：13歳です。

F：14歳です。

M：10歳です。

——目標または尊敬する選手は誰ですか。

T：目標とする選手は、ジャングマンです。

F：目標とする選手は、ペドロ・マルティネスです。

——あなたにとって野球とは何でしょうか。

T：私の人生。大好きです。

F：私の人生。

M：私の人生。子供の頃から野球をしているので野球は血の様に体の一部です。家族全員、野球をしており、私にとっては野球をすることは当たり前ことです。

——皆さんの今シーズンの目標を聞かせてください。

T：今シーズンの目標は、1軍に上がることで、機会があればチームのために勝利を上げたい。

F：もし機会をもらえたら良い仕事をし、リーグで良い成績を残したい。

M：1軍に昇格して、定着したい。そしてチームの勝利に貢献したい。



——最後にファンの方へのメッセージをお願いします。

T：活躍してファンの人を喜ばせたい。

F：ファンの皆さんへ「これからも支え続けてください。」「がんばろう」

M：いつも一生懸命支えてくださるので、そのまま続けてもらえたら必ずチームは成功します。ファンあってのカープです。ファンの温かい応援のおかげで、私たちはもっと強くなれます。

取材を通じて

今度の取材を通じて、ドミニカアカデミー選手練習生へのカープ球団の素晴らしいサポート体制と、3名の方の野球に対する情熱を感じる事が出来ました。

しかし、外国の方が日本の中で暮らしていくにあたっては、言葉の問題もありますが、文化の違いの問題も大きいようです。今回のお話でも、母国と日本の文化が随分違っており、大変な戸惑いを持っておられることがわかります。今後外国人の方が増加していく中で、お互いの文化の違いを理解し、共に生活できる社会を目指す重要性を、改めて認識できました。

最後に今回ご協力いただいた広島東洋カープの皆様への感謝と、3名の方が一日でも早く日本に慣れて、1軍に昇格され活躍されることを楽しみにしたいと思います。

【カープアカデミー】

メジャーリーグベースボール(MLB)のアカデミー制度を参考にし、外国人選手の発掘・育成のため、広島東洋カープが1990年11月に6億円を投じてドミニカ共和国に作った日本球界史上初のアカデミーである。



交流部

Report 1 「雪生活体験」を開催しました

1月28日（日）、今年で16回目となる「雪生活体験」を、美和東文化センター（広島県山県郡北広島町溝口）にて、美和東ふるさと振興協議会と共催で開催し、広島県内在住の外国人37名（13か国・地域）に参加していただきました。

当日は近年にない積雪で、北広島町はまさに銀世界でした。早速、地元の方や子供たちと雪だるま作りや雪遊び、雪合戦を楽しみ笑いが絶えませんでした。地元の方の案内で雪に包まれた町の散策もしました。雪遊びの後は、女性会美和東支部の皆さんが作られた地元料理と、外国人参加者による多国籍料理を囲んで交流会を行いました。ステージ発表では、地元芸能の銭太鼓、北広島町のイメージキャラクター花田舞太郎の総踊り、神楽「恵比寿」を鑑賞しました。参加者からは中国、ネパール、マレーシアの方が、それぞれの国の民族衣装を着て、衣装について紹介をしていただきました。

最後に、参加者を代表して劉軍瑩さん（中国）が謝辞を述べ、美和東ふるさと振興協議会の皆さんと一緒に記念写真を撮って終了しました。



交流部

Report 2 「ボランティア通訳ガイド講習会」を開催しました

2月10日（土）、ボランティア通訳ガイド講習会を開催し、43名の方にご参加いただきました。今年のテーマは「縮景園と世界平和記念聖堂」。（一社）ひろしま通訳・ガイド協会の畝崎雅子先生を講師にお迎えし、縮景園・世界平和記念聖堂の紹介やガイドする際のポイントや、英語の効果的な学習法、経験豊富な先生のエピソード等を楽しみ、またフランクにお話いただきました。また、参加者の方から英語力強化トレーニングについてご要望があったため、今回は発音記号やシャドーイング等についても詳しくご講義いただきました。

参加者の方からは「まずはもっと広島のことを知る。自分なりにどう伝えたいかももう一度考えたいと思いました。」「ガイドの仕方、英語の勉強の仕方など参考になることがたくさんありました。」などの感想をいただきました。

本講習会が、ご参加いただいた皆様それぞれの感性を生かした広島島のさらなる魅力発信に繋がれば幸いです。



交流部

Report 3 平成29年度 市町等の多文化共生に係る取組支援事業の報告

当センターは広島県の委託を受けて、平成25年度より市町等の多文化共生に係る取組支援事業を実施しています。県内市町・市町国際交流協会が実施する多文化共生に関する啓発事業等に対して、講師の紹介や調整、講師経費の負担等の支援を行うことにより、市町等による多文化共生の地域づくりの取組を促進しています。平成29年度は、市町等が実施する市町職員向けの「やさしい日本語」研修や日本語ボランティア養成講座、外国人市民防災リーダー養成講座などの活動に対して13市町28回の支援を行い、延べ492名の参加がありました。平成30年度も引き続き実施しますので、多文化共生の地域づくりに是非ご活用ください。



交流部

Report 4 医療通訳の実施研修と勉強会を開催しました

医療通訳実地研修

ひろしま国際センターでは、平成30年度からの医療通訳派遣運用に向けて、12月から1月にかけて医療通訳サポーター対象に医療通訳実地研修を実施しました。実地研修の目的は、①病院の外来患者受入れの流れを知り病院の環境に慣れること、②受診の一連の流れを体験しながら、医療従事者が使う言葉を現場で学ぶこと、③医療従事者と顔の見える関係をつくることでした。

今回は、舟入市民病院、安佐市民病院、県立広島病院の多大なるご協力を得て実施しました。研修では、病院の概要説明を伺い、小グループ毎に患者役、通訳者を決め、医療従事者を交えて模擬通訳をさせていただきました。模擬通訳は、外来患者を想定し、受付、診療科での問診、体温測定、診察、検査、精算、薬の受取りの場面で行いました。最初医療通訳サポーターの参加者は診療の場面で緊張した様子でしたが、先生が暖かく対応して下さり、安心して医療通訳に臨むことができ、大変有意義な研修となりました。この場を借りて、舟入市民病院様、安佐市民病院様、県立広島病院様に御礼を申し上げます。



医療通訳勉強会

病院での実地研修を終えて、実際に現場に必要な言葉や表現に改めて気づくことができました。そこで、実地研修の復習として、2月17日（土）に勉強会を実施しました。講師はMICかながわでベテラン英語通訳者としてご活躍の上野一行様にお越しいただきました。勉強会では、参加者一人ずつが通訳者役となり模擬通訳に挑戦し、それに対するフィードバックを頂き、病院で通訳しにくかった表現を復習することができました。また自主学習の仕方のヒントも得ることができ、自己研鑽への意欲が高まりました。



医療通訳オリエンテーション

12月17日（土）に、医療通訳養成研修を受講され、選考に合格された方へ、オリエンテーションを行いました。オリエンテーションでは、医療通訳サポーター派遣事業の概要、倫理と心得、今後の予定について説明しました。そして、ひろしま国際センターの医療通訳サポーター登録証を授与しました。現在、医療通訳サポーター登録完了者は、英語17名、中国語10名です。



交流部

Report 5 国際交流員と一緒に「韓国語でおしゃべりしよう」イベントを開催しました。

2月24日、「韓国語でおしゃべりしよう」という交流イベントを実施しました。イベントはほとんど韓国語で行われ、国際交流員の鄭アルムさん（韓国出身）がナビゲーターを務めました。韓国語を勉強している広島県民の皆さんと韓国語で楽しく交流しました。このイベントは異文化への理解をさらに深める機会になったのではないかと思います。

※「韓国語でおしゃべりしよう」は、今年あと3回を予定しています。次回の日程詳細は、HICのホームページやFacebookなどでご案内します。



留学生活躍支援センター

Report 6 「留学生による伝えるHIROSHIMAプロジェクト」を開催しました!

広島県外の留学生26名を広島に招き、3月14日(水)～16日(金)の2泊3日、広島を学び体験してもらうプロジェクトです! 平和公園や広島平和記念資料館を見学し、被爆樹木についてのお話、ワークショップなどを行いました。また、広島ならではの好み焼き体験や、マツダミュージアムの見学もしていただきました! 今回のプロジェクトにボランティアとしてお手伝いしてくれた県内の学生さんとも仲良くなってくれたようで、とてもうれしく思っています! 3日間を通して参加者のみなさんからのメッセージを留学生活躍支援センターのFacebook (#留学生による伝えるHIROSHIMAプロジェクト)で紹介していきます。みなさんぜひご覧ください。

留学生活躍支援センター

Facebook: <https://www.facebook.com/hints.sc>



Facebook



留学生活躍支援センター

Report 7 マツダ駅伝大会に参加しました

平成30年3月4日(日)に、毎年恒例の「マツダ駅伝大会」に出場しました。今年のHICチームは、インドネシア、メキシコ、アイルランドの外国人留学生、日本人学生、HICスタッフの7名でたすきを繋ぎました。



当日は大変良い天気で、絶好のランニング日和。残念ながら入賞はできませんでしたが、多くの方の声援を受けながら、楽しいランニングができました。

留学生活躍支援センター

Report 8 ひろしま留学大使イベント 中華春節交流会を開催しました!

2月10日(土)旧正月をお祝いする中華春節交流会を開催しました。

留学大使が中心となって交流イベントの企画、運営を行いました。

交流会には約20名が参加し、ミャンマー・中国・マレーシア・ベトナムなど世界各国の料理と一緒に調理し、それぞれ自国の料理や旧正月にちなんだ音楽や文化を紹介し合い、盛況に終わりました。

イベント中に作成した動画をFacebook上で紹介しています。HSAAからの旧正月お祝いメッセージ、是非ご覧ください!

ひろしま留学大使

Facebook:

<https://www.facebook.com/hsaa2014>

ウェブサイト:

<https://hsaa-studyabroad.jimdo.com/>



ひろしま国際センター
草の根国際協力助成金交付事業

平成30年度 募集のご案内

ミャンマーの小学校への水供給施設建設事業
(特定非営利活動法人ESA)



ひろしま国際センター研修部では、民間レベルの自発的な国際協力活動を推進するため、民間の非営利団体が実施する国際協力活動に対して、事業費の一部を助成していますので、ぜひ活用ください。

対象事業

- ①国際協力の担い手となる人材を育成する事業…広島県内で実施される講演会、セミナー、体験活動など
- ②開発途上の国や地域での国際協力事業…福祉・保健・医療・環境保全、教育文化、産業技術などの分野で行われる事業

事業期間 平成30年4月1日～平成31年3月31日

助成額 対象経費の50%以内(上限額:①100万円②200万円)

対象団体

- 公益を目的とした民間の団体で、かつ、次の要件をすべて備えた団体
- ①国際協力の理念を理解し、国際協力の推進を目的に活動すること
- ②広島県内に活動の拠点があること
- ③構成員の過半数が広島県内に住んでいること

募集期間

平成30年4月1日～平成30年5月1日
※募集要項はホームページに掲載しています。
<https://hiroshima-hip.or.jp>



「紺野美沙子さんと国際協力」を開催しました

2月10日(土)13:20-14:50、ひろしま国際プラザ開設20周年記念事業「紺野美沙子さんと国際協力」を開催しました。

紺野さんからは、国連開発計画(UNDP)親善大使としての20年近くにわたるご経験から、実際に視察に行かれた、カンボジア(1999年・2007年視察)の、青年海外協力隊員が活動していた小学校やスラム街で出会った子ども達のこと、ケニア(2016年視察)では、日本企業の援助で設置されたる過装置により村に安心・安全な水が手に入ること、パキスタン(2010年視察)の、2005年の地震被害にあった村や地滑りを防ぐための工事現場を視察されたこと、などのお話がありました。また東日本大震災後、被災地支援のため、朗読を通してめぐもりを伝えるイベントを続けておられることの紹介もありました。



会場からの様々な質問に対しても、真摯に自分の言葉で、丁寧にお答えをいただき、「大げさでなく、小さなことでも他人のために自分ができることから始めていきましょう」と参加者へのメッセージを贈られました。参加者からのアンケートでも、「世界を舞台に活動されている話を聞いてエネルギーをもらった」「世界の情勢が身近に感じられた」「小さな一歩を今日から頑張ります」などの感想が寄せられました。

約90名の参加者一人ひとりが、紺野さんのお話、体験談をきっかけに、身近な所からの国際協力を自分のこととして考える機会になったのではないかと思います。

Hello Hiroshima

Vol.100 April 2018



A new age of exploration and colonization on the horizon

Daniel Mackey

As many of you may already know, there were recently two major events of note that gained a lot of attention in our ever-shrinking world. One of them was, of course, the political-charged Winter Olympics held in South Korea, and the other, and in my opinion much more significant one, was the trial launch of the world's most powerful rocket, "Falcon Heavy", by renowned entrepreneur Elon Musk.

I myself watched the launch of the Falcon Heavy on YouTube since I don't own a TV, and I couldn't help but marvel at its glory despite the modest size of my 24" computer screen. But what I and many other people found even more fascinating than the launch itself was the moment when the rocket's two side boosters detached and made the trip back to earth where they achieved a perfect landing nearly simultaneously. The image was almost surreal, and I couldn't help feeling that I was witnessing a new stage in the technological progress of mankind.

Being able to recover and then reuse major portions of the rocket in this way means that the prohibitive cost of launching rockets will drop drastically over time compared to conventional one-use rockets. This will have the effect of making space travel much

cheaper, and thus result in more launches that may bring both immediate as well as long term benefits. While Musk has stated that one of his short-term goals is to bring high speed broadband internet to the whole world by launching thousands of satellites into space, his long-term goal is nothing less than the colonization of Mars. Towards this end, he has already made his detailed colonization plan available online. The recent successful launch of the Falcon Heavy has helped to further accelerate the momentum towards achieving his dream of colonizing Mars.

According to Musk's estimate, he believes that colonization might start in earnest by as early as the year 2030. From my perspective, it seems like there would be a staggering number of nearly insurmountable obstacles to overcome before this were possible, but Musk appears undaunted by the task at hand. If the technology to carry out such an ambitious plan is already within our grasp, then I suppose it's just a matter of time and money. Oh, and figuring out who to send over there first. We need a qualified ambassador to represent us when first contact is made with the Martians!

In an age when the future of our own world seems to be growing more uncertain day by day due to threats both natural and manmade, I feel like there is an ever greater significance and sense of hope in the idea of humanity spreading out to the stars to forge a new home in the wilderness of space.



世界を変えてきたのは、
いつの時代も、
たったひとりの
強い想いだ。

いつか世界を変える力になる。 青年海外協力隊 シニア海外ボランティア 体験談&説明会

東広島 青年 4/18(水)
18:00 ~ 19:30
広島大学(学生プラザ・東側)

広島 青年シニア 4/21(土)
11:00 ~ 12:30 (シニア)
14:00 ~ 16:00 (青年)
合人社ウエンディひと・まちプラザ

春募集 4/2・5/1 まずはWEBサイトへアクセス! JICAボランティア 検索



こちらJICAデスク



広島から世界へ! いつか世界を変える力になる!

広島から世界へ!2018年3月下旬より、
広島県出身のJICAボランティア2名が世界へ向けて出発します!



■現在赴任中の広島県出身 JICAボランティア(名)

区分	男性	女性	合計
青年	17	25	42
シニア	12	2	14
日系青年	0	1	1
日系シニア	0	0	0

平成30年1月31日時点

JICAボランティア <青年海外協力隊とは!>

「自分の持っている技術・知識や経験を開発途上国の人々のために活かしたい!」という強い意欲を持つ20歳~39歳の日本国籍を持つ方が対象のボランティアです。

派遣は原則2年間。衣食住を現地の人とともにしながら、互いに理解を深め、途上国の発展を支援する。そんな現場レベルのボランティアに、あなたも参加してみませんか!?

40歳~69歳の方を対象とした「シニア海外ボランティア」もあります。

帰国隊員レポート ~スリランカ篇~

坂本 真弓さん



スリランカ

南アジアのインド亜大陸の南東に位置する共和制国家。

【概要】面積: 65,607平方キロメートル

人口: 20,277,597人

首都: スリ・ジャヤワルダナプラ・コッテ

公用語: シンハラ語, タミル語

宗教: 仏教徒(70.1%), ヒンドゥー教徒(12.6%), イスラム教徒(9.7%), キリスト教徒(7.6%)

現地での活動内容

主要経済都市であるコロomboからバスで3時間ほど東北にある州役所で、環境教育隊員として活動しました。

幼稚園や小学校を巡回し、ゴミ箱設置の手配など環境整備をはじめ、3Rやゴミの分別指導を中心に活動しました。また、スリランカで一番の課題であるポリエチレンゴミの削減を目的に、州役所内のランチシート(ポリエチレン)の廃止、環境問題の学習会など意識啓発も行いました。他に、玩具など日本からの支援物資を活動先に提供したり、終業後、日本語教室を開いて、日本語学習、日本文化の紹介をとおし、コミュニケーションを図りました。



▲幼稚園にゴミ箱設置



▲日本語教室



▲3Rを教える



▲ゴミのポイ捨ては当たり前

スリランカってこんなところ!

スリランカのローカルバスの車内には、仏陀の像が飾られ、その周りを派手な電飾がピカピカとしています。上部には、スピーカーが6つくらい設置され、スリランカポップミュージックが大音量で鳴り響き、時々、タンバリンや太鼓、ラジカセを持ち込んで歌いにくる人もあり、いつも賑やかです。ドアは常に前後開けっ放しで、時速100キロ位の大暴走と急停車、隣の車とスレスレの追い越しを繰り返すので、かなりのスリルがあります。



▲バス車内は賑やか

スリランカの食事

食事は、3食カレー。大きなプレートにご飯を大盛りのせ、数種類のカレーをかけて、右手の指でご飯とルーをしっかりと混ぜて、手で食べます。南アジアの中で一番辛いとも言われています。辛さがマイルドな豆のカレーがおすすめです。

そして、スリランカといえば、やっぱりセイロティー。10時と2時には、必ずティータイムがあり、重要な会議中でも甘い紅茶とスイーツが出てきます。大盛りのご飯に砂糖たっぷりの紅茶。ちょっと糖尿病が心配になります。



▲会議中もティータイムが大切



▲3食カレー

坂本 真弓さん プロフィール

- ・広島市出身。
- ・県内の大学を卒業後、県内企業の東京支店で2年勤務後、現在の県内企業に転職。就業しながら、広島大学大学院マネジメント専攻を修了。2016年10月よりスリランカの北西部州役所にて環境教育隊員として活動する。

参加のきっかけ

幼少期から国際協力活動に携わってきました。2011年に個人で奨学基金を設立して以来、バングラデシュの子どもの教育支援をしています。大学院では、途上国のビジネスについて研究しました。今までの経験や学習を活かし、途上国の人々、社会、会社に貢献したいと思い、JICAの民間連携ボランティア制度を活用し、参加しました。

参加して思うこと

派遣前は、途上国で働き、生活することについて高いハードルを感じていました。しかし、スリランカの場合、ある程度設備は整っていて、勤勉で有能な職員のおかげで終始順調に活動できました。生活面では、停電や断水も度々あり、洗濯機も冷蔵庫もない生活でしたが、さほど大変ではなく、当初の想像とはかなり違っていました。現地に根付いた生活をした経験により、真実を知ることができ、周りへの感謝をより深くしました。チャレンジすることの大切さを感じています。